

自分のデジタル力がわかる
第22回「全国スキル調査 2023」
～スキル調査 & DX実態調査～
ご協力のお願い

特定非営利活動法人ITスキル研究フォーラム

Copyright©2023 IT Skill Research
Forum All Rights Reserved.

2023年6月

デジタルに関わる「全国スキル調査～スキル調査 & DX実態調査～」へのご協力のお願い

昨年の「第21回全国スキル調査」では、多くのITエンジニアとビジネスパーソンの方々にご参加いただきました。ご協力ありがとうございました。調査結果は私どものWebサイトに掲載し、また日経コンピュータ・日経クロステックなどのメディアでも取り上げられました。中でも、エンドユーザー視点でDX（デジタルトランスフォーメーション）の価値を生み出すこと、また経営層・上司が目指す方向性の明示とITへの関心を持つことがITエンジニアのやりがいに大きな影響を与えていることを示した内容は、各方面から大きな反響を呼びました。改めて感謝申し上げます。

本年も、ITエンジニアや情報システム部門担当者の皆様に加えて、一般のビジネスパーソンの方々も自らのIT活用スキルを把握できる「全国スキル調査」を実施いたします。今回もこれまでと同様、回答を終えるとその場でスキル診断結果が表示されますので、ご自身や自社の現状を把握していただくことができます。具体的には、ITスキルと合わせてコンピテンシーやDXに対する意識と行動の診断結果をその場で提示し、回答者ご自身の意識や行動を、全国平均と比較しながら、5段階の客観的な数値で把握いただくことができます。

また、DXへの取り組み状況や取り組む上での障害、DXに対する経営層・上司への満足度、キャリアとリスクリングへの意識、などのアンケート調査も併せて実施します。企業の文化や仕事に対する意識、働き方に対する考え方は、デジタル時代に適応するようにどれだけ変わりつつあるのか——このことを経年で調査するのが目的です。大きな負担なく回答いただけるよう、アンケート項目数も絞り込んでいます。

本調査は、日本企業のDXを促進するという観点から、個々のITエンジニアやIT担当者の方々はもちろん、企業の経営層や政府の政策担当者からも、非常に重要な指標である認知されています。ぜひご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人ITスキル研究フォーラム
理事長 田口 潤

- ◆ 2003年12月に日経BP社を中心に設立。2010年4月、NPO法人に改組。
- ◆ ミッション：ITエンジニアおよびIT利活用人材のスキル可視化を通じて、ITおよびデジタル技術の利活用推進によるあらゆる産業の発展に貢献する。
- ◆ 取り組み
 - ① 経産省やIPAをはじめIT利活用人材育成に取り組む機構・諸団体や企業と共同し、IT利活用人材育成に関わる諸問題を議論し、啓蒙活動に取り組む。
 - ② ITエンジニアとIT利活用人材のスキル調査を定期的に実施し、分析情報などを経産省、IPAほか諸団体、ITおよびビジネス分野の雑誌、Web、メルマガなど多様なメディアを通じて、IT企業とIT利活用企業の人材育成や組織改革に役立つ情報を提供する。
 - ③ IT企業とIT利活用企業に対し人材のIT利活用度を定量的に把握する手段を提供し、経営戦略や人材戦略の立案ならびに実施を支援する。また、ITエンジニアとIT利活用人材に自律的なスキル向上を促す。



(※画面イメージは変更する場合があります)

【全国スキル調査の概要】

◆2002年より実施しているIT企業のエンジニア、情報システム部門担当者、ITを活用するビジネスパーソンを対象とする個人のスキルレベルを明らかにする全国規模での調査。

本年度はITエンジニアおよびITを活用するビジネスパーソンを対象に「全国スキル調査2023」を実施。

◆日経BP社の日経コンピュータ、日経クロステックを始め、IT系媒体、IT関連団体、OSや資格試験ベンダーが告知協力して行う、国内唯一のスキル実態調査。



DXによる価値実現の第一歩は、エンドユーザー視点の意識にある。そのためには、エンドユーザーの姿を具体的に捉えるとともに、現場の社員に理解や機会を与え自覚を育むことが求められる。

デジタル技術を活用して企業のビジネスモデルを根本的に変えていくデジタル変革(DX)。ここ数年、DXの重要性が業界全体で叫ばれている一方、その意識について懐疑的な目向け人も多く、中にはDXを経営課題のバリエーションとして取り入れている。DXがビジネス上の価値を生み出すには、デジタル技術がビジネスに効果的に実装される必要がある。社内のユーザー部門は必ずしもITに明るいとは限らず、いくら現場でDXの良いアイデアが出てきても、社内そのアイデアを実装できる方なければ新たなビジネス展開を実現するのは困難だ。

IT人材がDX経営の鍵に

加えて、Webやスマートフォンで提供されるサービスをはじめとして、ITの技術は世界から日本市場に入ってきており、消費者は既にITの便益を高度な体験に慣れている。BtoCビジネスを展開する企業サービスを実現し、十分に目的消費者を満足させて競合との差を打ち勝つには、現代的で洗練されたユーザー体験を可能にするプログラミング技術を持備したIT人材の不可欠である。従って、企業がITスキル人材を確保し、組織に働いてもらうことがDX経営



やりがいを感じているIT技術者は、全体の3割にもいる。後継者や活躍させる大きな要因の1つは、経営層や上司の「好奇心」の欠如だ。任せておける有能なIT技術者は、他社から声がかかっているかもしれない。

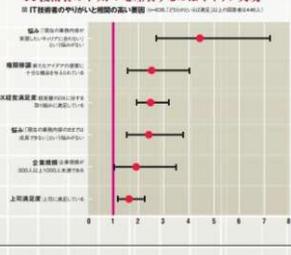
次に第2の仮説である、IT技術者の確保と活躍のための環境整備について見ている。ここでは調査回答者のうち本調査で「ITに関わる職種ではない」と回答した人を除外し、IT技術者722人のみを分析対象とした。まずはIT技術者が自らの職場に対してやりがいをもって働いているかどうかを分析した。やりがいについての設問への回答を集計すると、「回答したくない」を除く636人中190人、約30%のIT技術者がやりがいを感じていないことが分かった。DXを推進する上でこれは深刻な事態である。

では、IT技術者の仕事のやりがいの有無に対し、経営層や上司はどのような影響を与えるのだろうか。本調査の執筆チームはこれを探るため、同分析による要因調査を実施した。

キャリアや成長がやりがいに関係

調査対象とした要因は、DX経営の満足度、上司満足度、職務昇進、実践環境、悩み、および属性項目(年齢、年収、労働時間、企業規模)である。90%信頼水準で有意となった項目のみを抽出したところ、IT技術者のやりがいに最も大きく関わっているのは、自身や部下のキャリア実現と現在の業務との関連性であることが分かった。また、アイデアを提案するための十分な機会や、成長できることも大き

IT技術者のやりがいを左右するのはキャリア実現



日経コンピュータ2022年12月22日号から

- ◆主催：特定非営利活動法人 ITスキル研究フォーラム（iSRF）
- ◆調査期間：2023年6月12日（月）～8月13日（日）（予定）
- ◆調査実施方法：Webサイト上で、スキルとコンピテンシーおよびアンケートに回答。無記名、無料。
- ★第22回「全国スキル調査2023～スキル調査 & DX実態調査～」
 - ・調査対象：IT企業のエンジニア、企業の情報システム部門担当者、ITを活用するビジネスパーソン
 - ・調査内容：
 - 【診断形式による調査項目】＊設問への回答完了後、即その場で診断結果を表示
 - ①ヒューマンスキルを測る「コアコンピテンシースキル設問」（72問）
 - ②ソフトウェア開発、プロマネ、情報セキュリティからIoT/AIにいたるまで14のロール（役割）における業務スキルによる診断。1回の診断で全てのロール（役割）に対するレベルを判定。仕事（タスク）の設問（106問）
 - ③DXの実態と個人の意識と行動調査
 - 「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の自社の実態についての設問（12問）
 - 「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の個人の意識と行動に関する設問（12問）
- 【アンケート形式による調査項目】
 - DXの推進度やDXへの取り組みに対する経営層・上司への満足度、キャリアとリスキングへの意識などのアンケート設問（21問）

- ◆ 第22回「全国スキル調査2023 ～スキル調査 & DX実態調査」を完了すると、以下の診断やチェックが無料で受診可能です。
- ★ ITリテラシーテスト【DS-iPass(仮称)】（30問）：DXではITのみならず幅広い知識が求められます。本テストでは、「ITパスポート試験」過去5年間の100問からランダムに30問を出題。ITテクノロジー、マネジメント、ストラテジーの各分野についての知識をチェックできます。
- ★ ストレスチェック（82問）：自分のメンタルヘルス状態がわかる診断。厚生労働省が推奨する項目をカバーしています。
- ★ 職場環境調査（83問）：職場環境はやる気や満足度に影響します。職場の環境を客観的にチェックできます。
- ★ パーソナリティ診断（73問）：自分のパーソナリティの特徴やタイプを知る診断。円滑な人間関係のために自分の特徴やタイプを知って、実生活に活かすことができます。
- ★ 文章チェック：100文字程度の文章を入力すると、読みやすさ、表現テクニックなどをコンピュータで自動解析。アドバイスを基に書き直すことでコツがつかめ、文章力がアップします。

参加方法

①特設サイトにアクセス



②エントリーシートに簡単なプロフィールを入力後、診断スタート

スキル診断

全ての診断を完了してください。

①コアコンピテンシー (所要時間:約10分) (完了日付:----/--/--)
 [本調査] **コアコンピテンシー診断**

②専門スキル (所要時間:約15~30分) (完了日付:----/--/--)
 [本調査] **スキル診断/DX意識診断**

全ての診断を完了すると、スキル診断結果を見ることができます。
診断結果
 診断結果を見る

住所、氏名等の個人情報入力なし
(任意でメールアドレスあり)

③参加者はその場で結果を閲覧

No.	主	業務(役割)	分類	業務スキルレベル					結果 表決	専門スキル 開示率
				Lv.0	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4		
1	[DX] ISストラタジスト	戦略・企画		3.1				★	高決	100%
2	[DX] システムアーキテクト	設計・開発		2.2		★			高決	100%
3	[DX] プロジェクトマネージャ	設計・開発		2.3		★			高決	100%
4	[DX] ソフトウェア開発エンジニアリスト	設計・開発								
5	[DX] エンジニアリングマネージャ	設計・開発								
6	[DX] 品質保証マネージャ	設計・開発								
7	[DX] 営業スペシャリスト	営業								
8	[DX] ネットワークスペシャリスト	運用・保守								

レベル	診断区分	
	DX	DX以外
Lv.4	DXにおいて個人に求められる意識と行動が十分に実現できている段階。DX推進部門や各事業部門の実質的DX推進リーダー。DXについて各事業部門を支援していくほか、自身の存在が組織を形作り、よりいっそう社内の変革を促進する役割が期待される。	
Lv.3	DXにおいて個人に求められる意識と行動がある程度実現できている段階。DX推進部門や各事業部門のメンバーであるとともに、DX推進部門と各事業部門との橋渡し役が期待される。	
Lv.2	DXにおいて個人に求められる意識と行動について、部分的に実現できているものまたは十分な段階。社内で既にDX推進業務に携わるリーダーやメンバーに準じていくほか、さらに意識を高め行動していくことが期待される。	
Lv.1	DXについての意識は実地立って、ほとんどの行動に準じているが、DXに関する情報を社内内外から収集し、DXに取り組み必要な業務を知り、少しずつ意識を醸成していくことが期待される。	
Lv.0	このレベルに定義されている人材像はありません。	

業務要件の定義

No. 6

質問は全てで 問 答です。
 [戦略・企画/評価]
 L [個別案件のシステム企画立案]
 L [業務要件の定義]
 に関する内容についてお答えください。

経験をもとに他者を指導できる

利用事例 (顧客や自社など) の立場として、個別案件のシステムに要求する業務要件を定義する。
 <解説>
 ▶要件を考慮した業務フローをプロセス単位で作成し、ユーザの具体的な要求事項を可視化する。
 ▶業務フローに基づき要求事項の評価を行い対応範囲を明らかにする。また、対応範囲以外の業務との関連性を取りまとめる。
 ▶対応範囲の業務の入力条件、処理条件、出力条件の業務ルールを概要レベルで作成する。
 ▶対応範囲の業務の例外処理を洗い出し、明らかにする。

○ ○ ● ○ ○ ○

システム要件の定義

No. 7

質問は全てで 問 答です。
 [戦略・企画/評価]
 L [個別案件のシステム企画立案]
 L [システム要件の定義]
 に関する内容についてお答えください。

経験がない&知識はない
 経験はないが知識はある
 サポートを得られればできる
 独力で行うことができる
 経験をもとに他者を指導できる

利用事例 (顧客や自社など) の立場として、個別案件のシステムに要求するシステム要件を定義する。
 <解説>
 ▶システム化の対象となる人の作業およびシステム機能の実現範囲を定義する。
 ▶他システムとの情報授受等のインタフェースを定義する。
 ▶ユーザがシステムをどのような環境(システム、人の動き)で運用・保守するのかを確認し、運用要件を概要レベルで作成する。
 ▶ユーザのニーズに適合した性能、可用性、キャパシティ、セキュリティ等に関する要件を概要レベルで作成する。

○ ○ ● ○ ○ ○

調査区分設定

最新更新日付： 2020/05/29

No	主	調査区分	内容	DX意識と行動レベル						結果表示	DX意識と行動回答率
				値	Lv.0	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4		
1	個人の意識と行動		自分自身の現状	3.2				*		表示	100%
2	企業文化風土		個人から見た企業の現状	2.4				*		表示	100%

※「★」は調査区分です。 ※「★」はあなたのレベル位置です。 ※「■」は設定されている領域

調査区分 : 個人の意識と行動 / 自分自身の現状

診断完了日付 : 20/05/29

レベル概要
コアコンピテンシー評価
DX意識と行動評価
回答情報受

レベル概要詳細

スキル名称	レベル	Lv.0	Lv.1	Lv.2	Lv.3	Lv.4	Lv.5	Lv.6	Lv.7
コアコンピテンシーレベル	2.9			*					
DX意識と行動レベル	3.2				*				

※「★」はあなたのレベル位置です。

タスク

不足タスク(ギャップ表示より値が低い箇所)

あなたのタスクランク↓

第1階層(大分類)	第2階層(中分類)	第3階層(小分類)	値	値	R0	R1	R2	R3	R4
DX意識と行動	個人の意識と行動	会社方針の理解と行動 (自分自身の現状)	2.5	3.0	→	→	→	→	
		知識と情報収集 (自分自身の現状)	3.0	3.0	→	→	→	→	
		組織と行動 (自分自身の現状)	2.5	3.0	→	→	→	→	
		課題設定と施策提案 (自分自身の現状)	2.2	3.0	→	→	→	→	
		スキルの見える化と学び (自分自身の現状)	3.8	3.0	→	→	→	→	
		IT利用の推進 (自分自身の現状)	3.0	3.0	→	→	→	→	

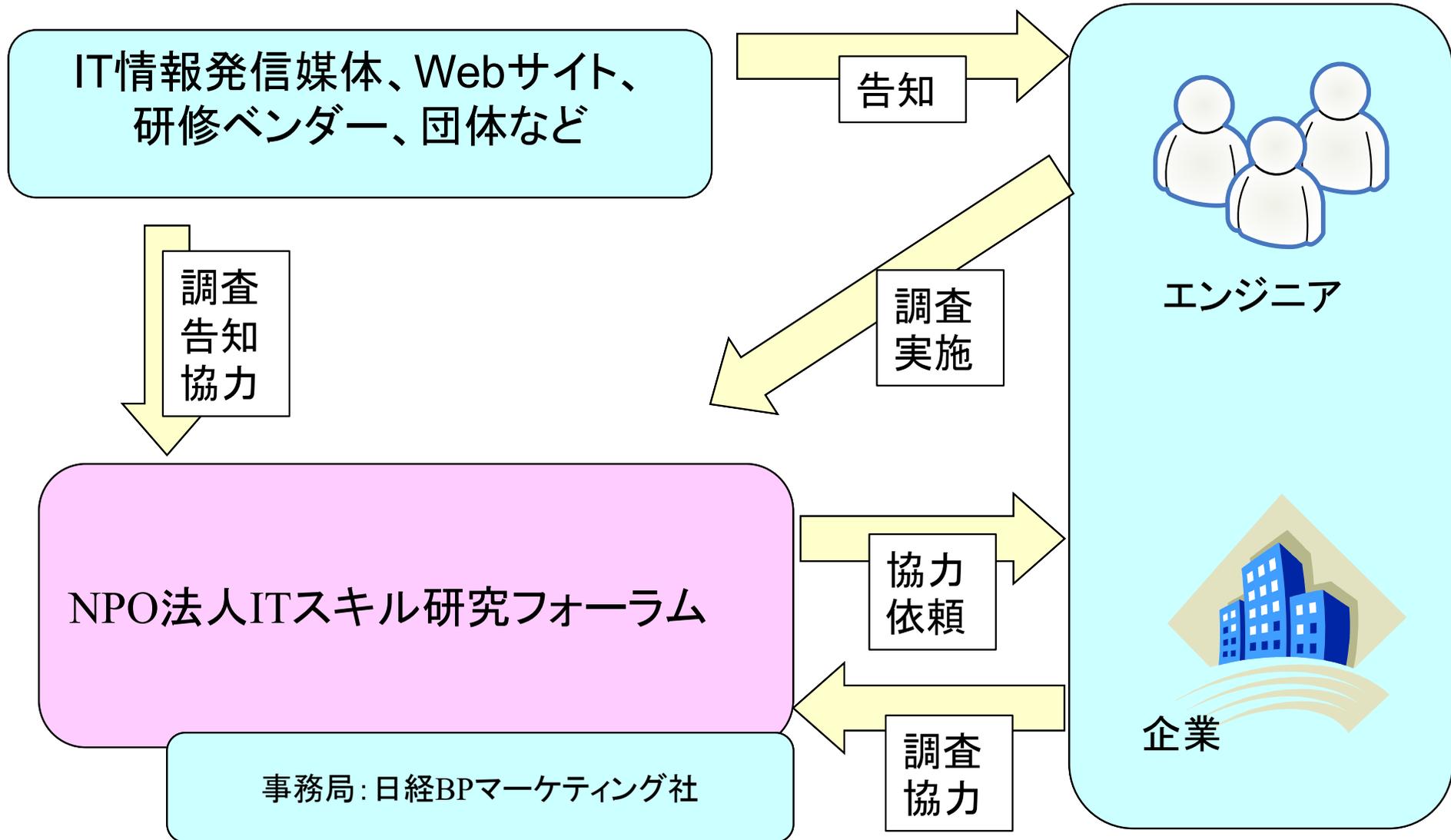
【必要タスクとのギャップ表示】

あなたのタスクランク(→)と必要タスクランク(■)とのギャップ表示

↓必要なタスクランク

スキル名称	あなたのスキル	全国平均
イノベティブ・アクション 革新性と創造性をもって物事にあたり、周囲を巻き込みながら変革を実現する	50	60
ロジカルアプローチ 現状を整理・把握し、課題を抽出して解決に繋げる	50	65
リスクマネジメント 目標達成に向け計画を立て、不測の事態にも対応しながら、着実に実行する	50	65
パートナーシップ 人との対話を通じて相手を理解し、要望に応えながら人脈を形成する	55	65
セルフコントロール 本質を見失わず、冷静さと学習する謙虚さをもって自己を律する	50	65
チームデベロップメント メンバーを支援・指導し、前向きに動機づけ、チーム/組織力を向上する	50	65

- 枠組み



第22回「全国スキル調査2023～スキル調査 & DX実態調査」の調査内容については下記をご覧ください。

<https://www.isrf.jp/home/event/chousa/>

★全国スキル調査2023 特設サイト

<https://www.isrf.jp/chousa/2023/>

特設サイトのオープン期間は、6月12日(月) から8月13日(日) までです。

◆お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人 ITスキル研究フォーラム (iSRF) 事務局

日経BPマーケティング

Eメール : isrf@nikkeibp.co.jp

〒105-8308 港区虎ノ門4-3-12 Webサイト <http://www.isrf.jp>